

福島第一原子力発電所 土壌 Pu 分析結果

1. 測定結果

(単位: Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238	Pu-239, Pu-240
グラント(西北西約 500m)	7月11日	$(1.6 \pm 0.14) \times 10^{-1}$	$(6.7 \pm 0.85) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約 500m)	日本分析 センター	N.D. ($<9.7 \times 10^{-3}$)	N.D. ($<1.0 \times 10^{-2}$)
産廃処分場近傍(南南西約 500m)		N.D. ($<1.1 \times 10^{-2}$)	$(4.1 \pm 0.69) \times 10^{-2}$
国内の土壌		N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N.D. ~ 4.5

: 文部科学省「環境放射線データベース」昭和53年～平成20年

: 「グラント」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

7月11日に検出されたPu-238とPu-239、240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、3/21以降にサンプリングした試料からPu-238およびPu-239、Pu-240が検出されている箇所もあるが、値に大きな変化は見られていない。

以上